



ギリシャ議会総選挙：さらなる緊縮に直面する労働者たち

EU を打倒せよ！労働者のヨーロッパを！



AP

3月15日、アテネの財務省の外で未払い賃金を要求する造船労働者たち

6月17日のギリシャ議会選挙において保守の新民主主義党が第一党になると、この党のアントニス・サマラス党首は次のように公言した。「ギリシャ国民はきょうの再選挙で、欧州の道を選び、ユーロ圏にとどまることを選んだ。」(朝日新聞6月18日)辛うじて勝利を収めた結果、新民主主義党は、12%の得票率に留まった全ギリシャ社会主義運動(Pasok)とより小勢力の民主的左翼(Dimar)との連立政権を率いる。この政権が人々の信任を得ているとはとても言い難い。というのも、全三党の総得票数は、投票者数が極めて低いなかで、投票数の50%以下だからである。1974年の軍事政権崩壊以降ずっと、新民主主義党とPasokは政権交代を繰り返してきたが、今やこの両政党が政権を握る。サマラスが首相となるなかで、ギリシャは再度、同じ腐敗した悪どい連中によって支配される。彼らは、欧州連合(EU)、欧州中央銀行(ECB)、国際通貨基金(IMF)といった帝国主義トロイカの命令の下で、ギリシャ労働者を破滅に追い込み、賃金や年金やサービスをずたずたにしたのだ。

ギリシャから日本まで  
資本主義の緊縮攻撃に対して階級闘争を！

新民主主義党の勝利は、ヨーロッパと米国の帝国主義支配者に安堵をもって歓迎された。彼らは、急進左派連合のシリザ (Syriza) が総選挙でもし勝利を収めたりすれば、緊縮策が拒否され単一通貨も消え去るのではないかと危惧していた。シリザによる予期せぬ選挙戦での勝利、とりわけ 5 月の総選挙での勝利は、労働者やプチブル大衆の絶望を表していた。彼らはトロイカによって要求された銀行救済の重苦しい諸条件をののしった。しかしシリザの綱領は、資本主義秩序や帝国主義銀行家たちに支配された EU を受け入れ、と同時に強奪が実行される諸条件のみを改善しようとしている。元ユーロコミュニスト、毛沢東主義者、そして一群の改良主義の似非トロツキストグループを含むシリザは、6 月の総選挙では約 27% の得票率で僅差の二位となった。スターリニストのギリシャ共産党 (KKE) は 4.5% に下がった。

だれもが知っているとおりに、今回のギリシャ総選挙はユーロ圏の危機を解決したのではなく、それを単に先送りしただけである。株式市場は総選挙の翌朝に急騰した一方で、スペインの公的債務のコストが過去最大レベルに達し、同国への財政援助の話が広まるなかで、市場は午後三時頃になると再び急落していた。

ギリシャ社会が直面する根本的問題は何ひとつとして着手されず、この国は依然として深刻な分極化状態にある。「黄金の夜明け」というファシストたちは、移民に対する人種差別主義のテロや左翼への攻撃といった暴力キャンペーンに加えて、不気味にも 7% の得票を獲得した。ギリシャは、過去 3 年間広範な社会層を引き込むなかで、大規模な抗議行動を経験してきた。一日とか二日間のゼネストが何度も実行された。ひとつの重要なプロレタリア闘争としては、アテネ郊外のエリニキ鉄鋼所の工場労働者たちが、200 日以上に亘るストライキを行ってきた。ギリシャ政府が労働者階級へのさらなる攻撃を加える時には、こうした抗議行動は一層激しさを増すだろう。

ギリシャでは緊縮への反対が広まっている一方で、世論調査は、労働者階級を含め、ユーロと EU に留まることに一貫して根強い支持があることを示している。多くの労働者は、疑いもなく KKE の支持者も含めて、生活水準への残忍な攻撃の一時的休止を願ってシリザに投票した。ブルジョアは、ギリシャのユーロ圏離脱でもしかして生じる悲惨な結果に関する恐喝キャンペーンを繰り広げた。飢えやひどい貧困が多くの人々の生きた記憶に焼きついている国で、生活条件がより悪化するかもしれないという恐れは極めて現実的である。

EU は、米国と日本の帝国主義ライバルと競い合うため、主としてドイツとフランスの帝国主義によって支配された連合である。我々はマルクス主義者として、原則的に EU に反対する。EU とは、ヨーロッパ資本家たちが結託してヨーロッパ労働者を搾取し、より強力な帝国主義列強がより脆弱な資本主義諸国を従属させるための手段である。

**ギリシャのトロツキストたちは言った：  
KKE に投票せよ！ シリザに投票するな！**

今回の総選挙で、ギリシャ・トロツキストグループ (TGG) の我々の同志は、ギリシャ共産党に批判的支持を与えた。KKE は、シリザとは反対に、EU と NATO からの離脱を訴えるキャンペーンを行った。さらに KKE は、シリザとの「左翼統一」連合に加わるための巨大な圧力にもかかわらず、ブルジョア政党とのいかなる連合に入るのも断固として拒否した。KKE は帝国主義 EU へのシリザの支持を

<b>Spartacist Japan</b>	
<b>No. 36 December 2012</b>	
Greek Elections: Workers Face More Austerity	
Down With the EU! For a Workers Europe!	.....1
Down With the Bosses' EU — For a Workers' Europe!	
Banks Starve Greek Working Ppeople	
For a Leninist-Trotskyist Party!	.....7
Statement by the Trotskyist Group of Greece	
Vote KKE! No Vote to Syriza!	.....16

正しく非難した。それは今回の総選挙で決定的な問題であった。KKE はまた、ソ連邦と東欧での資本主義反革命を支持したという理由で、雑多なギリシャの似非トロツキストグループ連中を非難するとともに、シリザを正しく非難した。

ギリシャの我々の同志は、「KKE に投票せよ！ シリザに投票するな！」という見出しの入ったビラ[16 ページを参照]を、学生、スト中の労働者、KKE やその他の左翼諸党のメンバーに大量に配布した。このビラは、「銀行はギリシャ労働者を飢えで苦しめる」という記事[7 ページを参照]のギリシャ語訳とともに配布された。この記事は、ギリシャスターリニストの改良主義に対し、国際共産主義者同盟 (ICL) の革命的なトロツキスト綱領を対置したものである。KKE は、最近の左翼的な大言壮語にもかかわらず、依然として議会主義と改良主義の政党である。彼らがしばしば持ち出す「人民」という言葉は、階級意識に害をあたえるものであり、KKE の徹底した民族主義と階級協調主義の綱領を示している。

KKE の改良主義は、「黄金の夜明け」のファシストたちの勢力増大への対応のなかで、はっきりと見ることができる。TGG のビラは、スターリニストが「黄金の夜明け」と闘うために労働者階級の動員を拒否するのを強く非難した。ギリシャ中の都市では、人種差別主義のギャングが、何のともがめもなしに移民や左翼の人々に暴行を加えている。こうした連中は、ファシストたちが警察や軍の将校たちの間から受ける広範な支持によって勢いづいているのである。6月7日、「黄金の夜明け」の暴漢イリアス・カシディアリスは、生放送のテレビ討論番組で、シリザの女性議員レナ・ドウロウにコップの水を浴びせかけた後で、KKE の女性議員リアナ・カネリに暴行を加えた。他の KKE のメンバーが路上でファシストの暴漢に襲われている。ところが、KKE のアレカ・パパリガ書記長は、カネリ議員への攻撃の後の記者会見で、「黄金の夜明け」による攻撃を阻止するためのいかなる動員も拒否したのだ。むしろ彼女は、次のように述べて、後進的な労働者からの投票をめぐってファシストたちと競い合った。

「私たちは物事をはっきりさせます。つまり『黄金の夜明け』に対する対応は、『目には目を』でも報復という方策でもあり得ません。その対応は結局、選挙で国民によって与えられるべきものです。もちろん私たちは、『黄金の夜明け』の活動やその方向性に賛成してこの党に投票した人々を非難しません。でもやはり、そうした人々は、投票するという武器を持っていることを自覚するべきです。そして『黄金の夜明け』を社会の隅に追いやるべきです。それこそが彼らが報いを受けるに値するものだからです。」(KKE ウェブサイト[kke.gr]、6月7日)

投票がファシストによる攻撃への解決策だという考えは、議会主義的クレチン病である。ファシストは投票箱で「打ち負かす」ことなどできない。「黄金の夜明け」は、第一に選挙上での現象などではなく、人種差別主義のテロリストなのだ。「黄金の夜明け」の暴漢たちは、1940年代に KKE メンバーに対して白色テロを実行したファシスト的なギャングの後継者である。このギャングは、ナチを敬愛した防衛大隊やグリヴァス将軍の「X」グループであった。「黄金の夜明け」のニコラオス・ミハロリアコス党首は、1967年に権力を掌握した軍事政権の指導者ゲオルギオス・パパドプロスの子分である。

KKE は、「黄金の夜明け」を前にして、犯罪的な無抵抗ぶりを正当化するために、労働者階級を欺き、ファシスト集団を初期のうちに粉砕する必要性を否定する。「黄金の夜明け」は、移民に対して、そしてまた究極的には労働運動全体に対して、致命的な脅威になる。組織化した労働運動と移民たちの統一戦線に基づく動員によって、ファシストを阻止する緊急の必要性が生じている。ファシストたちの目的は、労働組合や労働者党を物理的に破壊すること以外の何ものでもない。こうした人種差別主義のテロリストたちは、弱いうちに粉砕されなければならない。さもなければ、彼らは、この反動の時代に、より大きく成長しそしてより大胆になるだろう。より広い意味において、ファシズムは資本主義制度の打倒をもって究極

的に一掃されるであろう。そしてこの資本主義制度こそ、ファシストが成長する恐ろしい危機を引き起こすのである。

KKEの民族主義的ポピュリズムは、その綱領から明白である。綱領は次のように公言する。「深遠な愛国政党である KKE は、ギリシャ人民の民族的、民主的、そして革命的な伝統の真にふさわしい継承者である」、そして「ギリシャの安全保障を守る国家防衛政策」を呼びかける（KKE ウェブサイト[kke.gr]）。愛国主義や国家防衛への支持は、KKE が「ファシズム、民族主義、排外主義、そして人種差別主義のあらゆる現れに対して闘う」という主張とは相反する。それは、KKE の新聞のタイトル欄にあるマルクス主義のスローガン「世界の労働者、団結せよ」に相対立する。KKE の民族主義はまた、ヨーロッパ社会主義合衆国に向けた闘争とは正反対のものである。このヨーロッパ社会主義合衆国は、ヨーロッパ中の労働者階級の利益を表している唯一の綱領である。その合衆国は、ドイツやフランスや英国のような帝国主義諸国の労働者階級、またアイルランドやギリシャのような従属諸国の労働者階級双方の共通の利益になる。

### ギリシャにレーニン主義トロツキスト党を！

6月17日の総選挙が数週間後に迫るなか、ギリシャの多くの人々は、トロツキストたちがスターリニスト党に選挙で批判的支持を与えていることに驚きを表した。これがそんなに驚くべきことだということこそ、トロツキズムの名を汚しソ連邦の反革命を歓迎したギリシャの反共的、社会民主主義的な似非トロツキスト「家族」への告発である。ICLの我々は、それとは反対に、真のトロツキズムの綱領のために、東ドイツでそしてその後ソ連邦自身で、最後まで闘った。その綱領の中心的要素は、帝国主義と国内の反革命に対して墮落した歪曲された労働者諸国家を軍事的に防衛すること、そしてスターリニスト官僚を打倒するプロレタリア政治革命に向けて闘争することである。このスターリニストによる帝国主義との宥和こそ、労働者国家の防衛を掘り崩し、究極的に反革命へと導いたのである。

ギリシャにおける似非トロツキストと他の改良主義諸組織の一団は、シリザの勝利と「左翼の」資本主義政府形成への見通しを是が非という思いで願っていた。こうしたグループのいくつか、例えば「国際マルクス主義テンデンスー」と連合した「マルクス主義者の声」（Marxistiki Foni）や、米国の国際社会主義協会（ISO）のギリシャでの同調者である「国際主義労働者左派」（DEA）といったグループは、親 EU のシリザ連合内で互いに寄り添っている。日本共産党（JCP）もまた、シリザを基盤とした資本主義政府以外に何らの展望も持っていない。彼らはシリザを「緊縮路線と闘う」と評している（『赤旗』、2012年6月19日）。また JCP は何年もの間、EU とヨーロッパ資本主義を「ルールある資本主義」のある種の「お手本」として主張してきた（例えば JCP の指導者の一人である不破哲三による「マルクス主義古典」教室での講演、『赤旗』、2011年2月3日）。そして、不破によれば、この「ルールある資本主義」に向けてこそ、恐らく、日本の労働者が闘い続けるべきものなのである。さらに JCP は特に、「社会的ヨーロッパ」なる考えを押し出している（例えば JCP の『経済』にある「激化する『社会的欧州』をめぐる攻防」、2012年7月）。彼らは、EU が労働者の状況を改善するために利用できる枠組みであると主張している。こうした虚は、ここ日本における JCP の改良主義綱領全般と完全に合致している。その綱領は、日本の資本主義制度が社会主義革命を通じて打倒される必要はなく、労働者のために機能するよう改良することができると労働者に語っているのである。

第三陣営の中核派は、同じ改良主義綱領を、ほんの少し「戦闘的」な言葉で言い表す彼ら特有のやり方で、JCP とギリシャのシリザに追従している。それ故に、中核派はシリザを称賛し、シリザが「5月6日の総選挙ではトロイカとの対決を貫いたのだ」と描いている。中核派は単に、シリザの親資本主義と親 EU の政治に、幾分議会外的装いのみを与え、「彼ら[シリ

ザ]の主張は、選挙の勝利で実現できるものではない。力でもぎりとする以外にない」（『国際労働運動』、2012年7月）と主張している。これこそ中核派の果たす全般的な政治的役割の一例である。つまり、彼らは実際、同じ改良主義政治を幾分より「戦闘的な」外見で押し出すことにより、現在のプロレタリアートの誤った指導部に左翼的なおおいを提供しているのである。従って、中核派は究極的に、資本主義への幻想を、また労働者階級への社会民主主義的指導部の影響力を維持し強化するのを助けている。それ故に、彼らは革命的労働者党の建設に対する障害物なのである。

一方で、ギリシャ社会主義労働者党（SEK、英国 SWP のギリシャ支部）や自称第四インターナショナルに加盟する国際主義共産主義組織スパルタコスグループ（OKDE-Spartakos group）を含む Antarsya 連合は、総選挙で自身の候補者を擁立した。Antarsya の目的は単に、シリザを外部から左へと圧力を加えることだった。そのことは、OKDE が「左翼」資本主義政府というシリザの展望を完全に共有すると宣言したことを含め、数多くの声明で明確であり、次のように宣言した：「次の選挙での社会民主主義の左に立つ政権の形成がギリシャ並びに欧州中の勤労民衆に対して帯びることとなる重要性は、われわれすべてが実感している。」（『かけはし』2230号、2012年7月9日）

Antarsya は EU に対して名目上反対している。にもかかわらず、こうした改良主義左翼たちは選挙後にシリザが僅差で敗北したのを見て、新政府に対する議会野党のシリザを中心とした抵抗運動を打ち立てる努力を一層強化している。実際には、資本主義の緊縮に対する闘争において、シリザはヨーロッパ中の労働者や抑圧された人々のお手本として改良主義左翼に称賛されているのである。

USec（第四インターナショナル統一書記局派）は国際的に声明を出した。そしてその声明は、シリザの「緊急五項目」を全面的に支持する USec 加盟の「かけはし」によって転載された（『かけはし』2225号、2012年6月4日）。親 EU のシリザを公然と支持するこの声明は、今度は猛烈な反発を買った。それは USec のギリシャ支部にとってさえ、やや行き過ぎた内容であった。ギリシャ支部は Antarsya 連合内で忙しく活動してきた。彼らは「シリザの要求は不十分だ」と主張している（『かけはし』2230号、2012年7月9日）。どの親資本主義勢力に追随するかをめぐるとした相違は、USec 内で重大な内部論争へと発展したようである。しかし汚らわしいのは、かけはしがこの内部論争を、トロツキストの過渡的綱領のためにいかに闘うかという論争として、描き出そうとしていることである。ICL が基盤とする過渡的綱領は、現在のプロレタリアートの要求から労働者革命の社会主義綱領へのかけ橋を与えるために、トロツキーが提起したものである。全く反対に、USec 内のこうした内部論争は、どこでどのように USec の改良主義的欲求を追求するかという、つまり完全に資本主義搾取制度の維持という枠組みの中で、その戦術について同意しない改良主義者同士の争い以外の何ものでもないのである。

こうした改良主義者たちの立場は、内部からシリザに圧力を加えようとするのかあるいは外部から加えようとするのかいずれにせよ、資本主義 EU を維持するための構造を支持している。言い換えれば、彼らの立場はギリシャのような従属諸国が帝国主義者に継続して服従する構造を支持するものだとすることを露見しているのである。

後進的なギリシャ資本主義の帝国主義者への歴史的な従属、そしてギリシャ資本家が労働者階級と抑圧された人々に対して実行し続けるだろう残忍な攻撃は、SEK、DEA、「社会主義インターナショナリスト機構」（Xekinima）、OKDE-Spartakos group、そして「マルクス主義者の声」が支持する改良主義の圧力政治によって終わらせることなどできない。前進するための唯一の道は、労働者階級が自身の名で行う権力のための闘争である。それには、社会主義革命の綱領に基づいたレーニン主義トロツキスト党が必要なのである。この社会主義革

命は、資本家階級を収奪し、資本主義国家を一掃して、労働者政府で置き換えるのである。そして資本主義の危機の国際的性格は、こうした労働者階級闘争が、帝国主義の中心地をも含めて、国際的に拡大しなければならないことを強調している。

シリザへの公然または遠回しな支持に基づくなかで、改良主義左翼はまた、KKE が5月の選挙後に資本主義左翼政府の形成にシリザと共に参加するのを拒否したという理由から、KKE を非難することで連合してきた。彼らがセクト主義だとスターリニスト KKE をかん高く非難することのなかに、反共主義の暗示以上のものがある。彼らは1991-92年のソ連邦の破壊を歓迎した同じ諸組織であることを考えれば、それはほとんど驚くに当たらないのである。

こうしたいわゆるトロツキストたちは、プチブルの政治潮流で泳ぎ、より人道的で民主的な資本主義が可能であるという幻想を振りまくのである。日本の中核派は右から KKE を「ソ連崩壊後のソ連派スターリニスト」（『国際労働運動』、2012年7月）として非難する。実際ソ連邦の破壊は国際的な労働者階級にとって世界史的な敗北であった。そして KKE はそのように正しく認識している。それとは反対に、中核派はブルジョアジーの反共的で反ソ的な勝利主義の流れの中ですっかり泳いでいる。中核派と革マル派のような日本の第三陣営の改良主義グループは全て、ソ連邦の防衛を拒否した。彼らがちょうど今日、歪曲された労働者国家としての中国の防衛を拒絶しているようにである。こうして、彼らは明確に資本主義秩序の側に立っているのである。

中核派は同じ調子で KKE を「『怒れる人々』などの大衆決起に対立」（『国際労働運動』、2012年7月）していると批判する。国際的に、例えばスペインのプチブルの「怒れる人々」のように、その運動の政治は、米国におけるブルジョアポピュリズムの「占拠運動」と同じ政治的外観を装っている。彼らは、資本主義支配者から幾らかの穏やかな改革を求める一方で、資本主義制度を維持し、ブルジョア「民主主義」への幻想を助長するのである。中核派としては、ブルジョアポピュリズムの「ウォール街を占拠せよ」運動をばかばかしくも歓迎し、「世界革命に発展していくもの」と描いた。彼らは「99%がひとつになって1%と闘うことに圧倒的な喜びがある」（『国際労働運動』、2012年4月）として歓喜した。実際、こうした抗議の政治は、打ちのめされた労働者階級や多くの層の人々の心を現実に動かす一方で、同時に、親資本主義の労働組合指導部の裏切りを反映していた。より年若い活動家たちは大部分、労働組合が経済的正義のための闘争には無関係だと見なしている。こうした「占拠」抗議の政治的方向は、全般的に、米国の民主党を「よりましな悪」として支持したのである。中核派は、最近の選挙で明確に EU に反対したギリシャ労働運動内の一大勢力である KKE を、ブルジョアポピュリズム運動を支持しないという理由で右から非難する一方で、シリザへの幻想を押し出している。これは、中核派が社会民主主義的改良主義にいかにもどっぷりとはまっているかという、また彼らが改良主義 KKE の右に位置付いているという明確な証拠を与えているのである。

KKE とそれが導く労働者に対して反共的な敵意を抱くこうした諸組織とは反対に、TGG の我々の同志は、KKE への批判的支持という戦術を通じて、労働者階級の主要な部分の中で我々の綱領のための発言の機会を獲得しようとした。革命党の建設における戦略的任務は、KKE の労働者階級基盤をレーニンとトロツキーによるボルシェビキの国際主義綱領に勝ち取ることである。

KKE への批判的支持のための TGG による運動を通じて、多くの労働者や若者は、ギリシャでトロツキストだと名乗る諸組織の抱くプチブル的で反共的な偏見を、TGG が共有していないという事実気づいた。これは、真のボルシェビズムの綱領を、労働者階級の最も政治的に進んだ層にもたらす闘争において、小さいがしかし重要な最初の一步である。■

# ボスの欧州連合を打倒せよ—労働者のヨーロッパを！ 銀行はギリシャ労働者を飢えで苦しめる

我々は、国際共産主義者同盟（ICL）の米国支部スパルタシスト同盟/米国（SL/US）の新聞『Workers Vanguard（WV）』のために編集された5月5日付けの記事を以下に掲載する。この記事は、ICLの英国支部スパルタシスト同盟/英国（SL/B）の我々の同志によって執筆され、その新聞『Workers Hammer（WH）』218号（2012年春）に掲載されたものである。

\*\*\*\*\*



ギリシャ語版 17号  
「銀行はギリシャ労働者を  
飢えで苦しめる」

5月6日、経済破綻に陥る恐れの中で、ギリシャ議会総選挙が実施されようとしている。ギリシャの資本家たちは、雇用や年金や公共サービスの削減などが盛り込まれた苛酷な緊縮政策を科すことで、大衆の憤激を買っている。ギリシャのブルジョアジーの背後には、帝国主義の欧州連合と米国の支配する国際通貨基金が立っている。ギリシャ政府は、2月にこの両機関との間で、自国の債務不履行を回避する目的で、1,300億ユーロ（1,700億ドル）にのぼる財政支援を取り決めた。これはここ2年の間で二番目となる「救済策」であり、第一番目のそれと同様、実際のところギリシャの債権者たち（主としてフランスとドイツの銀行）ならびにギリシャの銀行に対する財政援助に他ならなかった。強欲非道なEU搾取者たちは、ギリシャが破綻しても、全ユーロ圏が共倒れにならないようにしっかりと目論んでいるのである。

ギリシャの労働者階級にとって、この危機は大いなる災いとなっている。賃金は引き下げられ、失業率は20%以上に及び、若者の失業率に至っては51%に達している。ホームレスはこの一年間で25%上昇し、ギリシャ人の3人に1人が公認の貧困ラインを下回る暮らしをしている。自殺者の割合も急増した。人々の怒りや絶望の象徴となる事件として、4月初めアテネのシンタグマ広場にある国会議事堂前で、退職した77歳の薬剤師ディミトリス・クリストラウスが銃で頭部を撃ち抜き自殺した。彼の遺書には、「ゴミ箱で残飯を漁ったり、自分の子供の重荷になったりする」事態に陥ることなど耐えられないと記されていた（『ニューヨーク・タイムズ』オンライン版、4月5日付け）。

ギリシャの資本主義支配者たちは、米、独、英、仏の各国金融業界のこの上なく協力的な共犯者である。EUと欧州中央銀行とIMF（いわゆる「トロイカ」）の指導者たちは、ギリシャの国家主権を絶えず踏みにじている。昨年11月、当時首相だったゲオルギオス・パパンドレウがEUの命じる緊縮策をめぐる国民投票にかける考えを表明したとき、EU指導者たちは、同首相の辞任ならびに欧州中央銀行の副総裁だったルーカス・パパデモスの首相就任を画策した。辞任したパパンドレウは、EUの緊縮政策の反対者には程遠かった。彼はブルジョアポピュリスト政党である全ギリシャ社会主義運動（PASOK）のかつての党首であった。この党は2009年以来政権を担い、第二次世界大戦以降最も苛酷な緊縮を科してきた。現在はエバンゲロス・ヴェニゼロスが党首を務め、アントニス・サマラス率いる右翼保守政党の新民主主義党と連立を組んで政権を担い続けている。EU指導者たちは、ギリシャが銀行への返済義務を憲法に組み込むよう要求している。この返済義務は、この度の選挙でどんな政権が誕生しても、法的拘束力を及ぼすことになるだろう。

我々は、プロレタリア国際主義者として、帝国主義の EU に対して一貫して原則的に反対してきた。EU は元々、ソ連邦に対抗する帝国主義軍事同盟である NATO の付属品として設立された。そして設立当初から、それは資本主義列強が結託して自国の労働者階級に緊縮を科すのに使われる機構であった。ドイツ主導の支配的な諸強国は、ギリシャ、アイルランド、ポルトガル、そして東欧加盟諸国といった弱小国を従属させている。「柔軟な労働市場」という旗の下で、EU は労働組合の権利を縮小し、低賃金と不安定な労働契約を科しているのである。

ギリシャの労働者に科された貧窮は、ヨーロッパ中の労働者に対する攻撃の典型的なものである。巨額の債務を抱え、ヨーロッパで公式に最も失業率が高い (24%) スペインは、3 月 29 日、政府の予算削減に反対する一日ゼネストにのみ込まれた。その一週間前、隣国のポルトガルでは、緊縮に反対する 24 時間ゼネストによって、この国の交通機関のほとんどが停止した。労働者階級が攻撃に晒されているのは、南欧のより貧しい国々だけではない。ドイツ帝国主義は、国内で賃金を引き下げ、福祉関連支出も徹底して削減した。ヨーロッパで最も強力な労働者階級であるドイツのプロレタリアートは、帝国主義 EU のアキレス腱となる可能性を秘めている。しかし、彼らは社会民主党によって指導されている。社会民主党指導部は、1998 年から 2005 年までの政権担当時に、労働者階級に対して苛酷な攻撃を加え、ドイツ帝国主義が世界市場において競争力を高めるのに貢献したのである。

国際共産主義者同盟のドイツ支部スパルタクスト労働者党の同志は、ギリシャ人に対する排外主義の波に直面するなかで次のように書いた。「ドイツの労働運動は、ギリシャの労働者たちやその他全ての EU 帝国主義者の犠牲者たちと連帯して、動員しなければならない。結局のところ彼らは、近い将来、同様の攻撃に直面するだろうからである」(『WH』211 号、2010 年夏[『WV』960 号、2010 年 6 月 4 日付けに転載])。昨年我々の同志は、「ドイツのブルジョアジーに命じられた枠組の下では、ギリシャのような債務諸国に窮地を脱する道など存在しない」と指摘した。そしてギリシャは、もし債務を履行せずユーロ圏から離脱すれば、はるかに暮らし向きが良くなるかもしれないと記すなかで、「そうすれば景気下降の悪循環は軽減されるだろうが、ユーロ圏からの離脱によってギリシャのプロレタリアートが世界経済の景気沈滞や資本主義による荒廃から免れることはない」と警告した(『WH』217 号、2011-2012 年冬に転載[『WV』992 号、2011 年 12 月 9 日を参照])。

単一通貨は、ドイツブルジョアジーに莫大な利益をもたらすことに寄与した。ギリシャの資本主義支配者もまた EU から恩恵を受け、ユーロを堅持する決意をしているように思える。そうすることは、ギリシャが債務を軽減したりまたその輸出競争力を高めるために、通貨切り下げができなくなるという事実にもかかわらずである。国際共産主義者同盟はユーロ導入に反対した。そしていくつかの異なる資本主義諸国間での単一通貨は維持することができないと指摘した。1997 年に我々は次のように記した。「自国境界内で貨幣の量を管理することはブルジョア国家の基本的な経済的特権」であり、「資本主義が特定の民族諸国家の基盤に基づいて組織され、それこそが世界を再分割するため繰り返される帝国主義戦争の原因となっているので、安定した汎ヨーロッパのブルジョア国家を結合し形づくることなど不可能なのである」(『WV』670 号、1997 年 6 月 13 日付け)。もしギリシャが、EU の命じた飢餓政策に対する大衆的な反対の衝撃下で、ユーロ (そして EU) から離脱する方向に進むようなことになれば、それはギリシャとその他のヨーロッパ諸国において、帝国主義者たちには敗北となり、労働者階級にとっては一步前進となるであろう。その間に、ドイツとその他の帝国主義諸国における労働者階級の闘志たちは、ギリシャが債務を払うべきだという法外な要求に反対しなければならない。

EU に反対することは、ヨーロッパ全ての国々の労働者階級にとって必要な出発点であるが、しかしそれがそのまま解決策だというわけではない。現在ギリシャで繰り返され、そしてスペイン、ポルトガル、アイルランド、イタリアをも巻き込まんとしている危機は、世界の資本

主義体制から生じている。ロシアの革命的な指導者 V・I・レーニンは、1916 年の著作『資本主義の最高の段階としての帝国主義』の中で次のように述べている。「帝国主義とは、独占と金融資本との支配が成立し」、「最大の資本主義諸国による地球上の全領土の分割が完了した、というような発展段階における資本主義である。」一握りの富裕な帝国主義諸国が世界中の圧倒的多数の人々を従属させ抑圧する。従属諸国（例えばギリシャとか今日のアルゼンチン）は、「政治的には形式上独立国でありながら、実際には、金融上および外交上の従属の網の目からまれている」のである。

帝国主義の下で、産業が益々集中化され、社会の社会主義的組織化のための基盤を据えるようになる一方で、各国は世界市場と一層緊密に結び付くようになる。しかしながら、資本主義は個々の民族国家に基づいており、その民族国家は必然的に利益や新たな搾取領域を迫及するなかで互いに衝突するようになる。資本主義的民族国家は従って、生産諸力のさらなる発展に対して足枷となるのである。労働者階級と抑圧された人々にとって、この桎梏から抜け出す唯一の道は社会主義革命を通じてである。そしてこの革命はブルジョアジーを収奪し、労働者の支配下において国際的な計画経済を打ち立てるであろう。

ギリシャの労働者たちは、過去 2 年間に、数多くの 1 日とか 2 日間のゼネストを決行し、ヨーロッパ帝国主義者とギリシャブルジョアジーによる共同一致した攻撃に反撃しようとしてきた。そして最近打ち出された緊縮策をめぐる議会総選挙への前哨戦のなかで、48 時間のゼネストを決行した。削減が承認されたその日に、大規模デモが国会議事堂前に集結し、凶暴な警官と激しい闘争を行った。しかし、ギリシャ政府による雇用や生活水準に対する容赦ない攻撃は依然として続いている。

ギリシャ労働者階級はその戦闘性と自己犠牲の長い歴史を持っている。しかし、彼らの闘争は、その改良主義指導部によって、決定的な時にギリシャブルジョアジーの支配を救済し、繰り返し消散させられ、また押し潰されたのである。決定的に必要なのは、レーニンとトロツキの綱領に基づく国際主義の革命的労働者党のための闘いである。ギリシャのトロツキスト・グループは、この地域一帯で、労働者革命のために闘うそうした党を建設しようと専心している。そして我々の綱領は、ヨーロッパ社会主義合衆国に向けたものである。

## ギリシャ共産党 (KKE) の階級協調

ギリシャの二つの主要な労働組合連合であるギリシャ労働総同盟 (GSEE) とギリシャ公務員連合 (ADEDY) は、緊縮策を推し進める主たる責任を負った PASOK と新民主主義党の支持者たちによって運営されている。こうした労働組合の指導者たちは EU に反対する素振りも見せない。同様に、ヨーロッパ一帯における労働者階級の改良主義的指導部も、EU をあからさまにまたは暗黙に容認し「社会的ヨーロッパ」なる幻想を助長している。

こうしたお定まりに対する例外が KKE である。KKE は EU に反対し、またユーロ導入を認可した 1992 年のマーストリヒト条約にも反対した。KKE が選挙で地歩を獲得するなかで、社会主義インターナショナリスト組織 (Xekinima) (「Start」という労働者インターナショナル結成推進委員会[CWI]のギリシャ支部)のようなギリシャの社会民主主義左翼や国際マルクス主義テンデンス加入の「マルクス主義者の声」は、KKE とシリザ (Syriza) (シナスピスモスを中心とし、共産党のかつての「ユーロコミュニスト」派から形成された急進左派連合)との「左派」連合を公然と宣伝している。しかし、KKE はそうした連合を拒絶し、シリザに対して「一貫して親 EU」であり、「シリザは結局のところマーストリヒト条約に賛成票を投じた」という事実を正しく批判している (Wikinews.org、2010 年 5 月 13 日)。

KKE はギリシャ労働者階級の中で最も戦闘的な部分からの忠誠を得ている。KKE の労働組合組織である全ギリシャ戦闘的労働者戦線 (PAME) は、GSEE と ADEDY の裏切り官僚たちに対して「階級志向」で反対すると主張し、彼らによるボスや自国政府との階級協調を正しく非難している。しかしながら、KKE は労働者階級にたいして一日ゼネストを繰り返す以上の方針しか提供できず、それは結局のところ議会ロビー活動の戦闘的形態となってしまう。KKE は労働者階級による権力奪取のための綱領を持っていない。この党は、ギリシャで革命的労働者党を建設するのに主要な障害物である民族主義に強く結び付いている。革命党を建設するうえでの戦略的任務は、KKE の労働者階級基盤をレーニンとトロツキーのボルシェビキの国際主義綱領へと勝ち取ることである。

KKE は、少なくとも紙上では、ギリシャ資本家とその反労働者階級の緊縮に反対する左翼的姿勢を取ってきた。党大会のテーゼやとりわけネット上の投稿において、KKE はマルクス主義者らしい言辞を並べたてている。KKE は第 18 回大会の社会主義に関する決議のなかで次のように述べさせている。「ブルジョアの軍隊と抑圧機構は完全に解体され、それらに取って代わり、搾取者の抵抗を粉碎し革命を防衛する武装革命闘争に基づいて、新たな機関が創設されるであろう」(2009 年 2 月)。

こうした口先だけの左翼主義は、KKE の実際の行動が示しているとおおり、まったくのたためである。資本主義国家、つまり「ブルジョアの軍隊と抑圧機構」という問題に関して、KKE の実際の綱領は、ごくありふれた変種の改良主義に他ならない。KKE は党機関紙『Rizospastis』(2011 年 5 月 25 日付け)の記事のなかで、党員が出席した全ギリシャ警察官連盟の集会について報告している。KKE 代表スピロス・ハルヴァジなる人物は、「警察の役割は大衆運動を抑圧するものであってはならないが、その主たる役割として犯罪訴追の任を果たさなければならぬ」と警官たちに説教した。警察は、裁判所、刑務所、そして軍隊とともに、ブルジョア国家の中核を形成し、そうした国家をレーニンは「ブルジョアジーがプロレタリアートを、一握りの富者が何百万の勤労者を『抑圧するための特殊な力』」(『国家と革命』、1917 年)であると述べている。現在ギリシャでは、「犯罪」に対する反動的撲滅運動が、何百人もの移民を検挙して強制収容所送りにするための口実となっているのである。

レーニン主義党は、資本主義支配者が近隣のバルカン諸国に対してだけでなく、特にギリシャの歴史的な敵であるトルコに対して煽り立てる民族排外主義と闘うだろう。EU がギリシャの国家主権を踏みにじることで引き起こされた高まる民族主義を背景にして、ギリシャ政府は移民に対する人種差別主義のキャンペーンを開始した。そして拘留センターを開設して何百人も逮捕している。「黄金の夜明け」といったファシスト諸組織が勢いづくなかで、移民に対する攻撃が増大し続けている。

抑圧された民族や移民たちの諸権利を防衛することは、社会主義革命に向けた闘争のなかで労働者階級の統一に絶対不可欠である。民族主義は、異なる国籍の労働者を互いに対立させ、階級意識に害毒を与え、資本家が全ての労働者の賃金を引き下げるのを援助する。アルバニア、南アジア、アフリカ、その他地域出身の労働者は、ギリシャの階級的兄弟姉妹とともに、共通の闘争へと引き入れられなければならない。労働組合の階級闘争指導部は、あらゆる人々の雇用のために、そして移民たちの完全な市民権のために闘うであろう。

KKE は、移民を防衛しファシストのくずどもを街頭から一掃するために、強力な労働者部隊を動員する社会的力を持っている。しかし彼らの民族主義はこうした展望の障害物なのである。1990 年代初め、マケドニアをめぐるギリシャ排外主義の激しい高まりは、「黄金の夜明け」の成長を助長した。旧ユーゴスラビア共和国がその名のなかに「マケドニア」の語を含めたとき、「マケドニアはギリシャだ！」と宣言するポスターがギリシャ中に溢れた。その時我々は、「排

外主義の大きな高まりに対する KKE の反応は、ギリシャ民族主義への不断の屈服である」と書いた。このことは、「我々は、いかなる外国の民族主義者にも、ほんの僅かなギリシャの土地の領有権でさえ主張させない」という KKE の声明にはっきりと表れている（『WV』565号、1992年12月11日）。我々の記事は次のように要求した。「ギリシャのマケドニア人を含め、マケドニアの自決権を！ ギリシャのマイノリティに完全な民主的権利を！ ギリシャを含めたバルカン社会主義連邦を！」

レーニンとトロツキーのボルシェビキ党によるプロレタリア社会主義とは反対に、KKE は民族主義的ポピュリズムを支持する。それは「人民の力」という絶え間ない反マルクス主義的要求で明らかであり、時々「労働者階級人民の力」というばかげた連結言葉に表明されている。例えば、KKE は次のように主張する。「人民の運動の基本的方向は、資本主義の打倒でなければならない。打開する唯一の道は、EU からの離脱と債務の一方的帳消しをともなった労働者階級人民の力である」（「新たな覚書に盛り込まれた諸方策一覧」、2月16日）。

KKE は、「人民」の共通の利益を説くことで、プロレタリアートを人々全体の中へと解消し、ブルジョア社会の階級分裂を曖昧にする。労働者階級は、生産手段という梃子をその手にしているので、資本主義を打倒する潜在的力と客観的利益をもった唯一の勢力である。労働者の搾取から利潤を得ているギリシャ資本家の利益と労働者階級の利益とは、調和させることなどできないのである。ギリシャ資本家は、帝国主義列強と密接に結び付き、列強の助けを借りて労働者階級を抑圧している。プチブルは資本家と労働者との間に異質な階層を形成している。それは教師から小規模農家や学生に至るあらゆる人々から成っている。そしてプチブルは、家族経営事業に従事するギリシャの人々の相当な割合を占めている。ギリシャ社会における民族主義的ポピュリズムの強い影響力は、産業プロレタリアートが極めて少なく、それに応じて都市部に暮らすプチブルが多数であるという事実に根差している。

「社会主義」の KEE 版は、ギリシャ国内だけのエネルギー諸資源を含んだ豊富とされる天然資源を利用することに基づく一国の自給自足経済形成という反動的な綱領である。KKE が思い描くのは「一国社会主義」の一変種である。これは、1924 年末に官僚がソビエト労働者国家を墮落へと導いた政治反革命で権力を横奪したとき、スターリンによって採用されたドグマである。「一国社会主義」はソビエト官僚の民族主義的日和見主義を明瞭に言い表したものであり、ボルシェビキ党による歴史的な革命的、国際主義的綱領に反対するものであった。このドグマは、スターリニスト官僚が帝国主義との「平和共存」という幻想を追求するなかで、外国の共産党を交渉の切り札へと変えるためのイデオロギー的正当化を与えた。レーニンは 1919 年のボルシェビキ党大会で次のように説明していた。「我々は一国家のなかで生活しているだけではなく、諸国家の体系のなかで生活している。そして、ソビエト共和国が長期間帝国主義諸国家とならんで存在するということは、考えられない。結局は、どちらか一方が勝利するであろう」（「中央委員会の報告」、1919年3月18日）。

ソ連邦がスターリン主義の下で墮落させられたにもかかわらず、我々トロツキストは、ソ連邦を防衛しスターリニスト官僚に対する労働者政治革命のために闘った。このスターリニスト官僚による帝国主義との融和政策は、労働者国家の存在を掘り崩していたのである。世界帝国主義からの数十年に亘る軍事的、経済的圧力に晒された後、1991-92 年のソ連邦における資本主義反革命は、スターリン主義の破産を決定的に実証するものであった。「一国社会主義」が地表の六分の一を占め鉱物資源も豊富だったソ連邦で不可能だったとすると、ギリシャの場合にはそれは完全にばかげたことである。

国際共産主義者同盟 (ICL)  
のウェブサイト

[www.icl-fi.org](http://www.icl-fi.org)

## KKEによる裏切りの歴史

今年二月、ギリシャ議会が第二次財政援助をめぐり論争し、議会の外では労働者が警官隊と衝突するなかで、ギリシャ政府報道官は内戦の亡霊を呼び起こした。そして KKE のアレカ・パパリガ党首は、ギリシャブルジョアジーによる 1940 年代の共産党員に対する弾圧に言及することで応じた。1946-49 年におけるギリシャの内戦は、今日のギリシャのあらゆる陣営に絶えず付きまとい続けている。ギリシャブルジョアジーにとって、国内で一番古い政党である KKE は、彼らの支配に対する労働者階級や農民の憎悪を具現化している。しかし、KKE がナチス占領とその後のギリシャ内戦でのレジスタンスを基盤とした資本主義に対する戦闘的闘士だという名声を保持することは、実際に滑稽である。

ギリシャのプロレタリアートに対する KKE の長い裏切りの歴史は、1920 年代末におけるこの党のスターリン主義化で始まる。KKE は、ソ連邦のスターリン主義指導部から発せられるあらゆる政策の転回に忠実に従った。1930 年代の経済危機の間、ギリシャは、1936 年 5 月のテッサロニキでのゼネストに見られるように、大規模な労働者のストライキで揺れ動いていた。KKE は労働者階級の運動全体を左右し、また農村部で強い支持を持っていた。しかし、KKE は労働者階級の権力に向けた闘争をブルジョア自由党との同盟に従属させ、イオアニス・メタクサスによる軍事独裁への道を開いてしまったのである。我々のトロツキスト先駆者たちは次のように説明した。

「1936 年 4 月から 8 月までの運命を決する期間を通じて、労働者階級は深い革命的気分で沸き返っていた。この間に、スターリニストたちは、決定的な革命的行動へと労働者を組織し、農村部の農民たちを闘争に引き入れる活動に取り組む代わりに、人民戦線を組織するよう自由党に強いる運動に精を出していた。しかしながら、自由党は彼らの主人の声を聞き入れていて、スターリニストの申し出を拒絶した。彼らはメタクサスの為の道に容易にすることで忙しかつたのである。」（「ギリシャの内戦」、第四インターナショナル、1945 年 2 月）

自由党員は、ブルジョアジーの右翼に対して KKE と同盟を結ぶどころか、労働者を粉砕するために右翼と連合したのである。

第二次大戦中のナチスによる残忍なギリシャ占領時代に、KKE はレジスタンスの指導部を確立した。ギリシャの労働者と農民たちは、レジスタンスの軍事部隊 (ELAS) に集まり、ナチス占領軍とゼルバス将軍のようなギリシャブルジョアジーの反共売国奴と英雄的に戦った。この将軍は、またナチス占領軍と協力していたイギリス帝国主義者の手先であった。そして、ドイツ軍がギリシャから撤退するまでには、ギリシャ全土は ELAS 戦士たちの掌握下にあり、憎悪されたギリシャブルジョアジーは彼らのなすがままであった。

しかしながら労働者と農民たちは、KKE 指導部の裏切りによってその勝利をかすめ取られてしまった。スターリニストたちは資本主義政府に入り、1945 年 2 月にヴェルキザ協定に調印した。そして KKE に率いられたレジスタンス戦士を武装解除し、見る影もない状態にあったギリシャブルジョアジーに権力を返還してしまったのである。このなかで、KKE はスターリンの反革命的な展望を受け入れた。このスターリンはすでに、1943 年にチャーチルとルーズベルトとのテヘラン会談において、ギリシャが資本主義にとどまり、イギリス帝国主義の支配下のままだに同意していた。何千人もの共産党員がその後の内戦で殺された。KKE のギリシャ民主軍が、1949 年に最終的に敗北を蒙った後、何千もの人々が亡命を余儀なくされた。逃亡できなかった人々は逮捕され、監獄島にある強制収容所に収容された。そこで彼らは、党を放棄しなければ、拷問に処せられた。数十年の間、KKE は非合法下におかれ、その党員はブラックリストに載せられたのである。

第四インターナショナルの同志が第二次大戦末期に記した以下の記述は、ギリシャ内戦時を通じて、スターリニストが演じた役割について当てはまる。

「ギリシャ大衆は革命的な決意に燃えて、ナチであれギリシャ人であれ、彼らの全抑圧者の打倒に備えようと望んだ。スターリニストたちは、1917年のボルシェビキ綱領のような革命的綱領で大衆運動に備え、権力奪取へ向け大衆を準備させる代わりに、こうした運動を人民戦線主義という袋小路へと導いてしまった。大衆運動を實際上主導していたスターリニストたちは、大衆の支持も影響力もない多くのプチブル政治家や法律家や教授たちと手を組んだ。そして資本主義的民主主義を求める闘いへと闘争をわざとらしく制限するために活動した。」

KKEは、歴史上、労働者階級を政治的に武装解除し、この階級をギリシャブルジョアジーに結び付ける人民戦線主義と階級協調というスターリン主義の伝統を、今日も依然として保持し続けている。

## 帝国主義とギリシャ資本主義

現代ギリシャ国家の従属的性格はEUへの加盟で始まったのではなく、誕生した時からギリシャに押しつけられていた。1832年5月、衰退しつつあるオスマン帝国から独立ギリシャ国家を作り上げた条約で、ギリシャ人は誰も同席していなかった。つまり、イギリス、フランス、そしてロシアという「保護する」列強の代表者たちしかいなかったのである。そして、絶対君主としてバイエルン国王のオットー王子が新たな国家に押しつけられた。19世紀を通じて、ギリシャは特に帝政ロシアに対するイギリス外交の手先であった。ギリシャは、早くから国家の近代化を試みたにもかかわらず、干しぶどう輸出に依存する農業国であり続けた。産業への投資はきわめて僅かであったが、海運業や後には金融業の商人を基盤とした富裕な商業ブルジョアジーが台頭した。

1830年代初めに、ギリシャ政府はオスマントルコに対する戦争の費用を賄うために、破滅的な支払条件でロンドンのシティと借款契約を結んだ。1880年代までには、イギリスに対するギリシャの債務は6億3千万ドラクマを超え、債務返済のために国家歳入の三分の一が費やされていた。そして干しぶどう市場が暴落すると、ギリシャは破産してしまった。これが今日まで持続しているパターンを定着させた。ギリシャに対するイギリス帝国主義の政策は、この国を従属させ財政上も外交上も完全に依存させるために、借款を利用するようにしたのである。第二次大戦に続いて、ギリシャ内戦の後半段階になると、米国がギリシャにおいて衰退したイギリス帝国主義に取って代わり、この国を従属させる武器として同様に援助や借款を利用したのである。

ギリシャブルジョアジーは、その地位を保障するため、いずれかの帝国主義列強に常に依存し、結託してギリシャのプロレタリアートを搾取してきた。そうした依存の諸関係は、帝国主義が存在するかぎり不可避である。唯一抜け出す道は、1917年の十月革命でロシアの労働者と農民が取った道である。彼らは、レーニンとトロツキーのボルシェビキによって指導され、国家権力を奪取し、資本家階級と地主を収奪して、ツァーリ専制とロシア国教会を一掃した。レーニンは、プロレタリア革命の世界党として第三（共産主義）インターナショナルを設立した。そして、生き残るために、後進国ロシアでの労働者革命は先進資本主義諸国、特にドイツに拡大されなければならないと強く意識していたのである。

プロレタリア国際主義は、ヨーロッパ中の労働者階級にとって、生死の問題である。彼らは、国内のブルジョアジーの攻撃に対してまたEUの強盗資本家たちに対して闘わなければならない。帝国主義諸国の労働者たちは、「自国」ブルジョアジーに対する闘争において、帝国主義

の支配下で暮すヨーロッパや世界中全ての人々のために、一撃を加える潜在力を持っている。例えばイギリスやドイツのような国々において、ギリシャやトルコやその他の国々出身の移民労働者は、彼らとともに戦闘的な闘争の伝統をもたらし、そしてまた祖国での闘争との有機的な結び付きを形成する。

世界的規模の経済危機は、資本主義の好不況の循環を一掃する必要性を完全に提起している。これは労働者革命を通じてのみなすことができる。そしてこの革命は、超富裕な搾取者を収奪し、人々の必要物に応じた生産を再組織化する。労働者階級を全ての抑圧された人々の先頭に立ち権力に向けて闘う階級へと転化するには、革命的な党の指導部が必要なのである。 ■



35号/「拳国一致」：ボスの利益、労働者の犠牲

連絡先	住所	連絡先	住所
Spartacist League of Australia <b>オーストラリア</b>	Spartacist ANZ Publishing Co. GPO Box 3473 Sydney, NSW 2001 Australia	Lega trotskista d'Italia <b>イタリア</b>	Walter Fidacaro C.P. 1591, 20101 Milano, Italy
Spartacist League/Britain <b>イギリス</b>	Spartacist Publications PO Box 42886 London N19 5WY Britain	スパルタシスト・日本グループ	スパルタシスト 115-0091 東京都北区 赤羽郵便局私書箱49号
Trotskyist League of Canada/ Ligue trotskyste du Canada <b>カナダ</b>	Spartacist Canada Publishing Association Box 6867, Station A Toronto, Ontario, M5W 1X6, Canada	Grupo Espartaquista de Mexico <b>メキシコ</b>	Roman Burgos Apdo. Postal 302 Admon. Postal 13 CP 03501 Mexico D.F., Mexico
Spartakist-Arbeiterpartei Deutschlands <b>ドイツ</b>	SpAD, c/o Verlag Avantgarde Postfach 2 35 55 10127 Berlin, Germany	Spartakusowska Grupa Polski <b>ポーランド</b>	Jan Jędrzejewski Skr. 148 02-588 Warszawa 48, Poland
Ligue trotskyste de France <b>フランス</b>	Le Bolchevik, BP 135-10 75463 Paris Cedex 10, France	Spartacist/South Africa <b>南アフリカ</b>	Spartacist, PostNet Suite 248 Private Bag X2226 Johannesburg 2000 South Africa
Trotskyist Group of Greece <b>ギリシア</b>	BOX 8274, Athens 10010, Greece	Spartacist League/U.S. <b>アメリカ</b>	Spartacist League Box 1377 GPO New York, NY 10116, USA
Spartacist Group Ireland <b>アイルランド</b>	PO Box 2944, Dublin 6 Ireland		

## ※16ページより

プロレタリアに基づく、革命的で、国際主義の綱領である。反対に、KKEはギリシャ民族主義に迎合する。それはギリシャで革命党を建設することに対する主要な障害物である。「人民の力」というKKEの展望は、資本主義を打倒する力を備えた唯一の階級であるプロレタリアートを「人民」へと解消し、階級の線、資本主義社会での中心的分裂を曖昧にする。「独占」に相対する「人民」として表現されたKKEのポピュリズムは、ブルジョアジーからのプロレタリアートの階級的独立に正反対である。

Chrysi Avgi（「黄金の夜明け」）のファシスト暴徒による移民への暴力的な人種差別主義の攻撃は、移民を防衛しファシストのクズどもを街頭から一掃するため、労働者部隊を動員する緊急の必要性を提起している。KKEはこれを実行に移すべき労働組合に社会的影響力を有している。しかしKKEの民族主義的ポピュリズムはこの実行に対する障害物である。KKEは、組織化された全労働者階級への脅威を意味する「黄金の夜明け」に対して労働者や移民を動員するのではなく、ファシストのクズどもに投票した同じ後れた層の人々の中からの投票を訴えている。そしてKKEは要求する。「『黄金の夜明け』に投票した労働者は、その投票を正さなければならない」（KKE広報担当局の声明、6月2日）。

KKEは「1950年代と1980年代の間、KKEは『左翼』連合を形成した」ことを認め、「連合の政策に関する経験から貴重な結論を引き出し、同じ誤りを繰り返すつもりはない」と主張している（「二つの厳しい闘いの狭間で」、5月23日）。これは誤りではなく、自身のスターリン主義綱領から出てくる裏切りであった。KKEは、現在連合政府への参加を拒否しているにもかかわらず、過去にブルジョア政府に加わるよう導いた綱領と政治的に決別していないのである。

我々の国際的テンデンスは、その資力の限界まで、反革命からソ連邦を防衛するため積極的に闘った。我々はまた、スターリニスト官僚に対するプロレタリア政治革命の立場に立った。そのスターリニスト官僚による「一国社会主義」と帝国主義との「平和共存」という政治は、ソ連邦の防衛を掘り崩し、1991-92年の反革命の勝利へと究極的に導いた。それは世界の労働者大衆にとっての敗北だった。

我々は、このKKEへの投票を呼びかけるなかで、より広範な人々に我々の幅広い政治的見解をもたらすために、「銀行はギリシャ労働者を飢えて苦しめる」（『Workers Vanguard』1002号、5月11日）という記事[7ページを参照]を大量に配布している。そして、そこで表明された政治に同意する諸勢力を一つの政治組織へと合同するよう努める。■

## 出版物の申し込み

申し込みから2年間、発行された全ての出版物(不定期刊)及びピラを郵送します。

**2年間の料金:300円(郵便振替も利用できます。00110-0-49515 SGJ)**

名前

住所

TEL

スパルタシスト・日本グループ

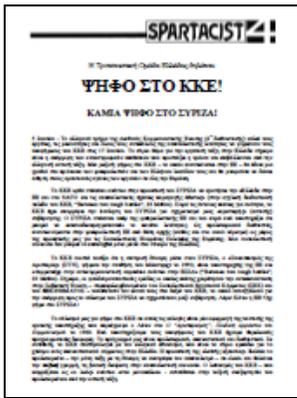
〒115-0091 東京都北区赤羽郵便局私書箱49号

TEL 03-3963-8007 Email: [sgj\\_icl@yahoo.co.jp](mailto:sgj_icl@yahoo.co.jp)

## ギリシャのトロツキスト・グループの声明： KKE に投票せよ！ シリザに投票するな！

以下の声明は、国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）ギリシャ支部（Trotskyist Group of Greece）の我々の同志が配布したビラの翻訳である。

\*\*\*\*\*



ギリシャ語版  
「KKE に投票せよ！」

国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）ギリシャ支部は、労働者、マイノリティ、そして資本主義の緊縮に反対する全ての人々にたいし、6月17日にギリシャ共産党（KKE）の候補者に投票するよう呼びかける。今日ギリシャの労働者階級にとって中心的问题是、トロイカ〔欧州連合（EU）、欧州中央銀行（ECB）、国際通貨基金（IMF）〕によって命令され、またギリシャブルジョアジーによって押し付けられてきた破滅的な攻撃を拒絶することである。EU に反対する KKE への大量投票は、帝国主義者とそのギリシャの追従者の顔面に平手打ちを喰らわし、ヨーロッパ中の労働者による防衛闘争を押し上げることができるであろう。

KKE は「ギリシャを EU と NATO に留め置き、資本主義生産諸関係をそのままにしておく」シリザの展望に対して正に反対している（KKE ウェブサイト、「二つの厳しい闘いの狭間で」、5月23日）。KKE は、統一のための極度の圧力にもかかわらず、「左翼」（ブルジョア）政府を形成しようというシリザのアピールを拒否している。シリザは、緊縮策について「再交渉する」ことが可能であると主張する一方で、帝国主義 EU とユーロに賛成する立場にいる。我々は、プロレタリア国際主義者として、（単一通貨と同様）帝国主義 EU に原則的に反対する。これはヨーロッパ社会主義合衆国に向けた我々の展望の一部である。社会主義社会はギリシャ一国の国境内だけで達成することができない。

KKE が正しく記しているように、シリザ内の中心勢力である「左翼連合」（SYN）は、1992年のマーストリヒト条約に賛成投票した EU の支持者であり、「ソ連邦に対する反共運動に加わった」（「二つの厳しい闘いの狭間で」、5月23日）。現在、社会主義労働者党（SEK）や社会主義インターナショナリスト組織（Xekinima、労働者インターナショナル結成推進委員会[CWI]のギリシャ支部）といったソ連邦における反革命をも歓迎した似非トロツキスト・グループは、自身を KKE の右に置いている。彼らは、シリザによる政権参加の呼びかけを拒否しているとして KKE を非難している。我々は言う。EU を打倒せよ！ シリザに投票するな！

我々が今度の選挙で KKE へ投票するよう呼びかけるのは、レーニンが、1920年に『共産主義における「左翼」小児病』の中で、概要を述べた批判的支持という戦術を適用したものである。我々は、KKE の候補者を支持する一方で、根本的に違う綱領を持っている。我々の綱領は、

※15ページにつづく

## レーニン主義トロツキスト党を！